令和２年入社式メッセージ

入社おめでとうございます。

社長の藤井でございます。

　皆さんにとって非常に重要な入社式を行うことが出来ず誠に申し訳ありません。

また、新入社員研修も分散開催されると聞いております。

非常に残念ことではありますが、世界中がとんでもない状況になっており、この選択をせざるを得ませんでした。重ねてお詫びいたします。

まずは、沢山の選択肢がある中、当社を選んでいただいたことに対して感謝申し上げます。

本日より我々の仲間であり、同僚であります。一日でも早く慣れていただき楽しい社会人生活を送っていただきたいと思っております。

　皆さんは令和の時代初めての新入社員となります。

私が入社したのは昭和５６年、その後平成の時代となり、昨年令和の時代を迎えました。

私の入社式は３９年も前のことです。新入社員は２４名、別に当時は事務補助職の女性が６名くらいいたと記憶しております。

まだ、長者丸研修所も無かったので根津の寮（今はありません。）に全員宿泊して今の三菱ビルで研修を受けました。研修期間は２週間、グループ分けされて、新入社員用のパンフレットを作製した記憶があります。懐かしい思い出です。

　入社前も入社後も、また社長になってからも良く聞かれる質問があります。

「どうして化学会社を選んだのですか」

経済学部出身だからかもしれませんが、世間から見たら不思議な選択なのでしょうか。

同期には商社や銀行などもいましたが、製造業を選んだ人数も意外と多かったと記憶しております。最後まで同じ会社で働き続けている方は、製造業が殆どです。他は転職しております。

当時、オイルショックも終わり世界中が何となく停滞した時代でした。イランイラク戦争もこの時代です。パソコンは既にありましたが８ビットでした。これから世の中が変わり始めるという予感はありました。そんな中画期的な製品がソニーのウオークマンでした。ソニーは当時既に世界的ブランドであり、ノーベル賞を受賞した江崎玲於奈が昔所属していた会社でもありました。

それで世界の技術革新を起こす、もしくはそれを支える会社に入ろうと思ったのです。熟考する中で化学会社を選びました（選んでいただきました）。正解だったと思っております。

当時の当社の売上規模は1,600億円、今の半分以下です。

入社した時にはサウジメタノールプロジェクトが進められており、サウジでのプラントが翌年完成し、会社全体も大きく飛躍します。数年のうちに2,000億円を超えたと記憶しております。

数年後にはタイでポリカーボネートプロジェクト、ポリアセタールプロジェクト、ベネズエラでのメタノールプロジェクト、沢山の海外プロジェクトがスタートしていきます。

一方で、国内においては研究の成果も大きく画期的な化学品を世に出し続けて行きます。

海外での飛躍、国内での特色ある化学品製造と着実に成長して来たのです。

化学業界の中でも注目される、また存在感のある化学会社と言う位置づけだと自負しております。

皆さんの先輩方は世間よりも先んじて４０年前からグローバルであり、常にイノベーティブであったかという査証であります。

当社は来年創立５０周年を迎えます。

過去の５０年は化学業界の中でも誇れる歴史だと思いますが、これは通過点でありこれからの５０年は皆様が作っていくのです。

過去の歴史、世の中の変化は簡単に説明できますが、これからの５０年がどう変化して行くのか、誰も答えは持っていません。

ここにビジネスチャンスがありますし、企業としての醍醐味があります。

是非皆様の豊かな想像力で新しい未来を構築していただきたいと期待しております。

会社と言う組織は、ダーウインが言う通り、変化に対して強いモノだけが生き残るのです。

これは従業員全体が常にイノベーティブでなければ変化に対応できませんし、出来ることならば変化を起こして世の中をリードして行きたいところです。

化学会社には、化学品を安全に安定的に効率よく製造することが求められておりますが、常に競争に晒されております。

この競争に打ち勝つためにはイノベーションが必要です。このイノベーションこそが変化への対応なのです。

結果として持続的成長が可能となります。

新入社員の皆さんは、どういう職場に配属されるか不安な気持ちで一杯だと思いますし、配属後即座にイノベーション力を発揮する場面は少ないかもしれません。

先輩の教えや職場のルールには従う必要がありますが、常に疑問を持ってください。

疑問を自分ならどう解決して行くか、更なる工夫がないかを常に意識し、この様に変えていきたいと提案をして行って下さい。

会社と言う組織は、皆さんに対して常に親切ではありません。会社が何かしてくれるだろうと期待しても多分期待通りにはならないでしょう。

何かを期待するのではなく、会社や組織に対して何が出来るか、どういう貢献ができるかという姿勢が重要です。

数年後には、皆さんがイノベーティブであり続け結果として大きく成長していることを願っております。頑張ってください。

以上